

## 県西地域でヒメトビウンカ第一世代幼虫の イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高い地域があります

### 本田に飛来するヒメトビウンカの防除に努めましょう

[現在の発生状況]

- ① 平成 25 年 6 月に、県西地域の小麦畑で採取したヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況を調査したところ、保毒虫率が高い（10%以上）地点があった（表 1）。

表 1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率（%）

地 点	平成 25 年	平成 24 年	平成 23 年
結城市結城	11.5	1.4	0.0
筑西市二木成	6.7	26.0	5.6
筑西市東榎生	19.7	—	—
筑西市野田	—	12.5	—
筑西市野殿	—	—	6.6

ラテックス凝集反応法により検定

採取月日：平成 25 年 6 月 4 日，検定月日：平成 25 年 6 月 19 日

平成 25 年供試虫数：結城市結城 96 頭，筑西市二木成 60 頭，筑西市東榎生 56 頭

[媒介虫の移動と防除対策]

- ① イネ縞葉枯病の原因となるウイルスはヒメトビウンカにより媒介される。麦畑で増加したヒメトビウンカは水田に移動するため、周辺に麦畑がある水田では特に本病が発生するリスクが高い。
- ② 田植えが遅い水田で本病に感染すると、被害が大きくなる傾向がある。
- ③ 昨年本病の発生が見られ、ウンカ類に登録のある薬剤で育苗箱施薬を行わなかった水田では、早急にヒメトビウンカの防除を行う。なお、薬剤については表 2 を参照する。

表 2 稲のヒメトビウンカに使用できる主な薬剤（平成 25 年 6 月 13 日現在）

薬 剤 名	希釈倍数, 10a 当 たりの使用量	剤の 使用回数	有効成分(使用回数)
ベストガード粒剤	3～4kg	4 回以内	ニテンピラム(4 回以内)
アドマイヤー水和剤	2,000 倍	2 回以内	イミダクロプリド(3 回以内) <sup>2)</sup>
スミチオン乳剤 <sup>1)</sup>	1,000 倍	2 回以内	MEP(3 回以内) <sup>3)</sup>
スミチオン粉剤 3DL	3～4kg	2 回以内(出穂前 は 1 回)	
MR.ジョーカー粉剤DL	3～4kg	2 回以内	シラフルオフエン(2 回以内)

1) 稲に登録のない製品があるので、確認のうえ使用すること。

2) 3 回以内（種もみへの処理又は移植時までの処理は 1 回以内，本田での散布は 2 回以内）

3) 3 回以内（種もみへの処理は 1 回以内，育苗箱散布は 1 回以内，本田では 2 回以内）

※農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を必ず確認のうえ使用する。



写真 1 イネ縞葉枯病の株での症状



写真 2 イネ縞葉枯病の葉での症状



写真 3 ヒメトビウンカ成虫（左）および幼虫（右）  
（成虫は体長約 3～4mm，幼虫は体長約 1～2mm）